



第2回 豊かなこころづくりフォーラム

2月5日(日)、市民の皆さんに徳育への理解を深めてもらうための「第2回 豊かなこころづくりフォーラム」(第52回佐世保市PTA連合会研究大会と同時開催)をアルカスSASEBOで開催し、小・中学生の保護者など約1,600人が参加しました。
 【写真上・左から】●感謝する心の大切さを発表する早岐小6年(当時)の岩田有生君●叱ってくれる大人のありがたさを発表する東明中2年(当時)の着場渚さん●親の目から見た徳育について意見を述べる三川内小PTAの岩永優子さん●日本とカナダの教育現場の違い、そこで感じた日本の良いところについて述べる早岐中ALT(外国語指導助手)のウッドブリ・コリンさん
 ※このほか、広田中PTAの小鳥居静香さん、佐世保市教育会宮支部長の横山春美さんからも、地域や親の視点からの徳育をテーマに意見発表していただきました。



当日は、PTAから標語コンクール入選者や研究発表校への表彰も行われました



「第2回豊かなこころづくりフォーラム」で徳育をテーマに「命を大切にすること」について講演する佐世保市徳育推進会議の木村勝彦会長(長崎国際大学人間社会学部長)

徳を育む

特集2 絆で結ばれた心豊かな社会を目指して

日本人が持つ相互扶助の精神。東日本大震災では、危機に直面した人同士が助け合う姿や、支援するために遠方から駆け付けた人々などの姿が報じられました。こうした心の在り方、すなわち「徳」が育まれ、日常生活でも発揮される社会こそが、真に豊かな社会と言えるのではないのでしょうか。今回の特集は「徳育」。市制施行百周年を迎える記念すべきこの年に、本市が取り組む徳育推進についてお知らせします。

徳育とは、「道徳心のある、情操豊かな人間性を養うための教育」と解かれています。人が人として生き、豊かな生涯を送るための「心の学び」であり、社会や共同体の秩序を保つために、自然な心ある行動を行うための教育とも言えます。

道徳心とは、善悪を判断し、善を行おうとする心のことです。例えば、
 ・ 自他の生命を尊重する心
 ・ 他者をいたわる心、感謝する心
 ・ 決まりや約束を守る素直な心
 などが挙げられます。また、そのような心情を育んできたわが国の伝統や

文化、郷土を大切にし、美しい自然を愛する心も、徳育によって育まれるべきものと考えられています。

今、徳育を進める意義

戦後、復興を成し遂げたわが国は物質的に恵まれ、価値観が多様化し、個性が尊重される社会を築き上げました。しかし、一方では自己中心的な風潮が広まって規範を守らない人が多くなり、個人を重視するあまり家庭や地域といった共同体の教育力が低下したとも言われています。

車やバスでのマナーの悪さなど、公共の場で規範が守られなくなったと感じる人も多いのではないのでしょうか。生命を尊重する心や他者への配慮、思いやりといった道徳心は、生まれながらに備わっているのではなく、大人が子どもをしつけ、教育することで育まれるものです。そして、そのような道徳心が普遍のものであることは、価値観が多様化したからといって揺らぐものではありません。

こうした道徳心を芽生えさせ、育んでいくための教育、すなわち徳育の必要性が高まっています。
大人にも必要な徳育
 徳育は、子どもに対するものだけではなくありません。今日では、教育者としての役割を果たすべき大人の徳育も重要視されています。「子どもたちは同じように教育された大人によって教育されなければならない」と19世紀の思想家・カントが言葉を残したように、お手本となるべき大人が徳を身に付けることで初めて、子どもに他人への思いやりや規範を教えることができるのではないのでしょうか。

持ち、安心で住みよいまちを築いていくためにも、徳育が必要ではないか。そのような思いから、本市は大人も含めた徳育の推進を目標に掲げてきました。
 平成20年度には、佐世保市徳育検討懇話会を設置。同21年度からは佐世保市徳育推進会議に引き継がれ、徳育の研究と検討が重ねられました。延べ9回の会議で委員の皆さんから提出された意見は、「徳育推進のための行動計画」提言書としてまとめられ、昨年11月に市長に手渡されました。
 この提言書を基に、本市はことし2月に「徳育推進のための行動計画」を策定しました。徳育を「規範意識、生命の尊重、他者への思いやりを培うとともに法やルールを遵守し、適切に行動できる人間を育成すること」と位置付け、ことしから平成29年度までの6年間で家庭や学校、地域、職場などの単位で取り組み、幼児から高齢者までを対象とすることなどを基本に、徳育を推進していきます。
 徳育が市民の皆さんに定着していくよう、今後は、佐世保市徳育推進会議を中心に新設される団体が徳育の推進母体となり、運営を本市が支援する方針です。

徳育推進のための行動計画

市民一人一人が助け合いの精神を

徳育推進
Topics

市役所で「一課一徳運動」を始めました

市役所では、ことし2月から、各課で行動目標を設定して実践する「一課一徳運動」を始めています。この運動は市内の家庭、学校、地域や事業所などへ一徳運動の実践をこれから呼び掛けていくに当たって、市が率先して取り組むことで、徳育推進への理解を深めてもらうために実施しています。各課では「お客さまの立場に立った接遇」や「環境美化に積極的に取り組む」などの目標を掲示するなど、大人が参加する徳育を実践しています。



話を伺った人
金比良小学校 百武信一郎校長

平成22年度に着任。「やさしく・かしく・たくましく」を学校教育目標に、徳育のほかにもコミュニケーション能力の育成や体験学習の充実など、全校を挙げて特色ある学校づくりに取り組んでいます。

うと始めました。昨年、後期の始業式で子どもたちに『何か一つ、1日の中で人のためになることを決めてやってみよう』と投げ掛けたんです。わたしの場合は、学校のトイレを出る時はスリッパをきれいに並べたり、バスを降りる時に運転士さんに大きい声でありがとう、と声を掛けたりするようにしています。同じように子どもたちにも目標を持たせることにしたんです。

子どもたちが立てた目標は、「笑顔であいさつする」「や」「みが落ちていて、あいつする」「や」「みが落ちていて、あいつする」。

「礼儀正しい雰囲気、他人を気遣い尊重する空気を作り出すことが必要だと思っています。そういう空気が学校にできることで初めて徳のある子どもが育つ、というのがわたしの持論です。初めは学校から、地域から自然発生的に広がって佐世保全体の空気がなっていく。誰もが気軽にできるシンプルな取り組みで、そうした雰囲気、空気を生み出していくのが一徳運動の意義だと思います。」

大人の徳育の必要性

「東日本大震災では、助け合う人やボランティアの復興支援などが報道され、日本人に相互扶助の精神が強く残っているのを感じました。しかし、日常生活の中ではマナーが守れない人、他人に気遣いができない人が増えているように感じます。学校でちゃんと学んでも、年を経るごとに徳を忘れていく。だからこそ、生涯を通じて人格を高める努力、つまり大人の徳育が必要なんだと思います。」

(取材日・2月24日)

今後、本市では一徳運動を徳育推進の大きな柱と位置付け、企業や団体などへも参画をお願いする予定です。徳育推進が市民運動として発展するよう、家庭や地域、学校、企業などの皆さんと連携しながら取り組みを進めていきますので、皆さんのご理解と協力をお願いします。

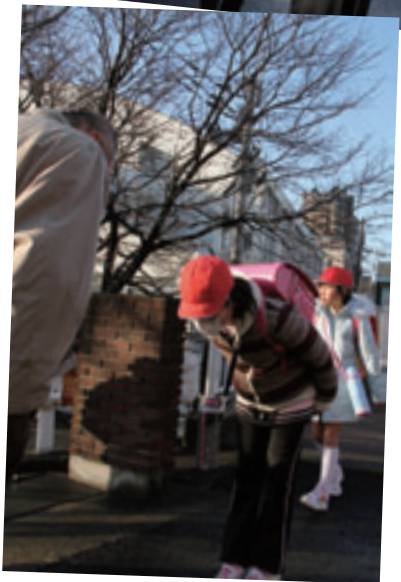


登校時間、金比良小学校の前に立つ百武校長に立ち止まってお辞儀をしながら「おはようございます」とあいさつする児童たち。一人一人がきちんとあいさつするため、児童たちは順番に並びます。(2月29日撮影)

いつでも、誰でも、どこでも
実践を通して徳を育む

一徳運動

感謝と思いやりの心を持ち、自分を律し、勇気を持って社会や他人のために何かできる人。本市は徳育によって目指すべき市民像をこう表現します。このような市民像を実現するため、本市は「一徳運動」が市民運動として広がるよう働き掛けていきます。



徳育が市民運動として浸透するには、家庭や学校、職場などさまざまな場面での推進が重要となります。そこで、本市では市民の皆さんが「いつでも、誰でも、どこでも」簡単に徳を実践できる方法として、「一徳運動」を提案しています。

一徳運動とは、家庭や学校、地域、職場などであいさつの励行や家庭でのお手伝いなどの目標を一つ設定して、感謝や思いやりの心を具体的な行動として実践していく運動です。

今回は、佐世保市徳育推進会議の委員を務め、教育の現場で一徳運動を実践している金比良小学校の百武信一郎校長に話を伺いました。

まずは「一徳運動」を試行

「静岡県の袋井市で一徳運動を進めていると知り、佐世保でも試行しよう